

施策評価シート(令和2年度)

(基本施策の大綱) 3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上

(基本施策) (1) 企業活動の促進・働く場の充実

(評価担当者)

産業建設部長 大澤 哲也

基本施策が目指す姿

多様な企業が、市内に立地し、事業活動を活発に行うことで、雇用が創出されています。

関連する分野別計画

成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	企業立地・事業拡張件数	件	-	H27	0	1	1	2		10
2	製造品出荷額等の額	億円	10,495	H26	11,766	9,613	10,339	10,905		11,200
3	製造業の従業者数	人	9,701	H26	10,088	10,235	10,119	11,652		10,200
4										
5										

市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	企業活動が活発に行われている	重要度 1.24	1.29	1.18	企業活動については、重要度、満足度とも下降しているが、今後、新規進出企業の操業が開始される事で、上昇していくものと考えられる。 働く場の充実については、重要度、満足度とも上昇しており、製造業に加え、スーパー、ドラッグストアなど商業施設の進出による働く場の拡大が考えられる。
	満足度 0.37	0.15	0.17		
2	働く場が充実している	重要度 1.46	1.39	1.42	
		満足度 0.64	0.44	0.39	
3	重要度				
	満足度				
4	重要度				
	満足度				
5	重要度				
	満足度				

総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	<p>亀山・関テクノヒルズの新10区画において、1社が進出決定、2社が操業開始、1社が令和3年度の操業に向けて着工するなど、「持続的な産業構造の構築」は順調に進んでおり、個別判定をAとしている。商工会議所と連携した経営指導など「既存企業の活性化」や、市内企業35社と関係機関で構成する鈴鹿川等源流の森林づくり協議会活動など「企業との連携によるまちづくり」は、まずまず進んでおり、個別判定Bとしている。基本施策に設定した成果指標はいずれも上昇し、市民アンケート調査においても、働く場への満足度が上昇していることから、基本施策が目指す姿にまずまず近づいていると考えられることから、総合判定をBとした。</p>

反省点・課題

亀山・関テクノヒルズに進出決定した企業に対し、円滑な操業開始に向けたサポートを継続するとともに、高速道路が結節する交通アクセスやリニア三重県内駅位置候補など、本市の持つポテンシャルを生かして、既存企業の事業拡充はもとより、新たな企業誘致を進め、重厚な産業構造を構築していく必要がある。

一方で、亀山・関テクノヒルズの残区画が少なくなっており、新たな産業団地の開発に向けた検討が必要である。また、持続可能な開発目標(SDGs)や脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進める企業が増えつつあり、それを応援する施策の検討が必要である。雇用面においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、求人を控えた企業もあり、新規雇用への影響が懸念されることである。

今後の展開方針

広域的なネットワークを有する県や産業団地の開発主体等と、引き続き情報共有など連携を図り、立地検討企業の把握やスピード感を持った企業対応に努め、幅広い業種の企業を誘致していく。さらに、新たな産業振興奨励制度を構築するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)や脱炭素に取り組む企業を応援する施策の検討を行う。雇用に関しては、経済情勢や雇用情勢を見極めながら、亀山市雇用対策協議会、ハローワークや商工会議所など関係機関と連携して、一体的な支援を行うとともに、企業や労働団体など関係機関と情報交換を行いながら、働きやすい職場となるよう支援を行う。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		持続可能な産業構造の構築				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】				【左記の活動により、施策は推進できているか】
A	活動	令和2年度操業した事業者2社に対し、奨励措置の指定を行った。また、立地検討企業や関係機関に対し、産業振興奨励制度も説明しながら、積極的な企業誘致活動を図った。さらに、県や産業団地開発主体をはじめ、既存企業や金融機関等とも連携を密にし、立地を検討する企業情報の把握に努めた。	評価	平成30年3月に完成した亀山・関テクノヒルズ新10区画において、令和2年度は、1社が進出決定、2社が操業開始、1社が令和3年度の操業に向けて着工した。その結果、6社(計9区画)の進出が決定し、順次操業も開始され、多様な業種の企業集積により、持続可能な産業構造の構築は、順調に推進できている。		
				順調に進んでいる		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17061	産業振興奨励事業	主	- / -	B	B
	19010	亀山・関テクノヒルズ工業用水道整備事業	主	1,000 / 0	C	C
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向		既存企業の活性化				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】				【左記の活動により、施策は推進できているか】
B	活動	コロナ禍により亀山市雇用対策協議会事業とハローワークが連携した定期的な情報交換の場を持つことや企業間交流を行うことができなかった。 一方、亀山商工会議所と連携を図り、専門家派遣事業など、6社に対して計12回の経営指導を実施し、販路開拓や商品開発等による経営力向上を目指す市内の中小企業者等を支援した。	評価	亀山商工会議所と連携した専門家の派遣による経営指導により、企業の経営基盤を強化することで既存企業の活性化に繋がる施策を展開できている。		
				まずまず進んでいる		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	5003	団体支援事業(労働者対策事業)	標	846 / 542	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向		雇用の創出と働きやすい環境づくり				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】				【左記の活動により、施策は推進できているか】
C	活動	コロナ禍により、雇用の創出に向けた、亀山市雇用対策協議会事業として高校指導主事との求人懇談会を開催することができなかった。 また、労働力確保が非常に困難な雇用情勢の中、労働関係機関が集まって意見交換できる場として企画した働く環境づくり懇談会を開催することができなかった。	評価	コロナ禍で事業が実施できなかったが、企業側も求人を控えていたという状況であった。そうした中、求人懇談会や働く環境づくり懇談会で配布予定であった資料をそれぞれの関係する団体に資料を配布し、今後の活動につながるよう取り組んだ。		
				あまり進んでいない		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	5002	融資対策事業	標	21,000 / 21,000	B	B
	5003	団体支援事業(労働者対策事業)	標	846 / 542	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向		企業との連携によるまちづくり				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】				【左記の活動により、施策は推進できているか】
B	活動	多様な自然の保全とそこに根づく歴史文化を育むことを目的に、平成30年度に設立した鈴鹿川等源流の森林づくり協議会において、体験イベントやPRを行った。また、持続可能な開発目標(SDGs)によるビジネスを用いた社会貢献を取り入れる企業が増えつつあることから、取り組み事例の研究を行った。	評価	市内企業35社と関係機関で設立した鈴鹿川等源流の森林づくり協議会において、自然を体験できるイベントや鈴鹿峠周辺の保全活動等の様々な活動を通じて、地域資源の再認識や保全を図るなど、CSR活動の支援を進めており、概ね施策を推進できている。		
				まずまず進んでいる		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
				/		
				/		
事業以外の取組	内容				活動	成果